

科目名	国際経済論Ⅱ(選択)	専門科目		開講期間	後期
		コース	A		
		開講年次	2	単位数	2
氏名	本田雅子	テーマ	貿易政策		
授業概要 国際経済論Ⅰで学んだ国際経済学の理論的枠組から自由貿易は世界全体にとってもっとも望ましいことがわかるが、現実には各国政府は貿易政策を行なって貿易に対して何らかの制限を加えている。本講義では様々な貿易政策手段の経済的効果を学ぶとともに、なぜ各国が貿易政策を行うのかについて考える。					
授業計画		後期			
		第1回 貿易政策とは			
		第2回 WTO (GATT) と貿易政策			
		第3回 余剰分析の基礎			
		第4回 関税の効果			
		第5回 輸入割当の効果			
		第6回 輸出補助金の効果			
		第7回 関税同盟の効果			
		第8回 自由貿易擁護論(1)			
		第9回 自由貿易擁護論(2)			
		第10回 自由貿易反対論(1)			
		第11回 自由貿易反対論(2)			
		第12回 国際交渉と貿易政策			
		第13回 地域貿易協定の効果			
		第14回 発展途上国と貿易政策			
		第15回 先進国と産業政策			
テキスト	指定しない				
参考文献	P. R. クルグマン/M. オブズフェルド(著)、石井菜穂子・浦田秀次郎・竹中平蔵・千田亮吉・松井均(訳)、『国際経済：理論と政策(第3版)Ⅰ 国際貿易』、新世社、1996年。				
視聴覚機器の利用		単位認定の方法	基本的に、試験+出席+授業参加態度によって評価する。		
学生へのメッセージ		内容的に関連する科目	経済原論Ⅰ、国際金融論		

科目名	国際金融論Ⅱ(選択)	専門科目		開講期間	後期
		コース	A	単位数	2
		開講年次	3		
ふりがな 氏名	ちば やす ひろ 千葉 康 弘	テーマ	国際金融論のホット・イシュー：国際金融システムとIT		
授業概要 【講義の目的】本講座は、ますます重要性を増し激動する「国際金融」に生起している諸現象を体系的に分析すると同時に、3～4年次開講の趣旨に鑑み、2年次及び3年次で開講されている金融論、銀行論それに国際経済関係の諸論との総合的結合を計ることを狙いとしている。 【講義の方法】本講座は時局を積極的に取り上げ“理論と現実(実務)との統合”の考え方で行われる。原則として、毎回講義メモ、質問カード(レポート提出等含む)及び発表などを導入する方式でおこなう。また、テーマにより専門の実務家による外来講師の参加も予定している。					
授業計画		後 期			
		第1回 序論：国際金融分析の手法			
		第2回 国際資本移動と国際資本市場			
		第3回 国際資本移動の理論			
		第4回 国際資本移動の形態と種類			
		第5回 国際資本市場(1)			
		第6回 国際資本市場(2)			
		第7回 国際経済協力機構：国際金融システム			
		第8回 地域経済協力機構：経済統合の理論			
		第9回 累積債務問題			
		第10回 国際通貨問題			
		第11回 国際流動性の問題			
		第12回 国際収支調整の信認の問題			
		第13回 国際通貨制度の問題			
		第14回 国際金融分析			
		第15回 総括：国際金融システムのあり方			
* その他随時、国際金融関連時事問題を事例として応用分析を行う。特に本年度はEU通貨統合、アジア金融危機後のアジア債券市場構想、北東アジア開発銀行構想を取り上げる。					
テキスト	講義レジュメを配布				
参考文献	中本、千葉他共著『現代経済学総論』税務経済協会1993、BIS'2003 Annual Report、旧大蔵省『国際金融局年報』、財務省国際金融局編『国際金融』財経詳報社、R. I. マッキノン『ゲームのルール—国際通貨制度の安定条件—』ダイヤモンド社、1994、推薦図書リストは講義時に配布				
視聴覚機器の利用	ビデオ、OHP他を活用	単位認定の方法	①定期試験 ②レポート提出 講義メモ等により総合判断		
学生へのメッセージ	目から鱗：国際金融論!!	内容的に関連する科目	国際経済論、外国経済論、国際関係論、国際政治、近代経済学、経済統計論		

科目名	西洋経済史Ⅱ（選択）	専門科目		開講期間	後期
		コース	A	単位数	2
		開講年次	3		
ふりがな氏名	白川 欽哉	テーマ	20世紀の欧米経済		
授業概要 <p>本講義では、20世紀の欧米経済のダイナミックな変化の原因とその影響を分析・検証していきたいと考えています。講義の概要は、下記の授業計画の通りです。大きく分けると20世紀は、巨大企業の誕生、二つの世界大戦、帝国主義と反帝国主義運動、福祉国家の進展、社会主義の盛衰といった特徴を有しているといえるでしょう。</p> <p>講義は、平易な表現で行うこと心掛け、専門用語については、可能な限り解説します。また、補助手段として講義レジメを配布します。なお、講義には、経済原論、経済政策論、経営管理組織、経済地理など、本学で学ぶことのできる科目が直接的・間接的に関連しています。総合的に学ぶ学習方法を身につけられるよう工夫してみてください。</p> <p>注「西洋経済史Ⅰ」で学習した内容を前提として話を進めます。講義中に聞き逃した点、理解しづらかった点があった場合には、講義終了後に申し出てください。</p>					
授業計画		後 期			
		第1回 20世紀の世界（概観）			
		第2回 19世紀末大不況とその影響			
		第3回 第二次産業革命と新興工業部門			
		第4回 巨大企業の時代へ			
		第5回 イギリスの地位低下とその背景			
		第6回 第一次世界大戦とロシア革命			
		第7回 大戦間期の繁栄			
		第8回 世界大恐慌と世界経済			
		第9回 ナチスとニューディール(1)			
		第10回 ナチスとニューディール(2)			
		第11回 第二次世界大戦後のアメリカ			
		第12回 冷戦構造の成立			
		第13回 欧州の復興			
		第14回 冷戦構造の解体			
		第15回 20世紀とはどんな時代だったのか			
テキスト	石坂・舟山・宮野・諸田編著『西洋経済史』（有斐閣）、その他は別途指示する。				
参考文献	原輝史・工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』（有斐閣）				
視聴覚機器の利用	ビデオ機器の使用	単位認定の方法	定期試験と出席率の総合評価		
学生へのメッセージ			内容的に関連する科目	一般経済史、日本経済史、経営史、西洋経済史Ⅰ	

科目名	外国経済論Ⅱ(選択)	専門科目		開講期間	後期
		コース	A	単位数	2
		開講年次	3		
ふりがな 氏名	ほんだまきこ 本田 麻子	テーマ	欧州統合		
授業概要 <p>2002年1月よりEU諸国の通貨がすべてユーロに置き換えられ、EUは単一通貨の創設という偉業を成し遂げた。ユーロは1999年の導入時から2年間、ドルに対して下落を続けていたが、2001年以降はその価値が安定してきており、ドルへのオールタナティブな通貨としての一定の地位を確立しつつある。また、EU諸国は90年代後半、労働市場の構造改革に力を入れており、90年代末から失業率や就業率で表される労働市場のパフォーマンスの大幅な改善を見せている。さらに、EUは中・東欧諸国10カ国の2004年EU加盟を決定し、21世紀の世界において再び壮大な実験を行おうとしている。</p> <p>このように欧州統合は近年、大きな注目を集めているが、欧州統合には欧州連合(EU)の前身である欧州(経済)共同体(E(E)C)から数えても40数年もの長い歴史があり、今日に至るまで順調に単線的に統合が進んできたわけではない。欧州統合は大きく前進することもあったが、行き詰まることもあった。また、欧州統合は通貨統合に集約されるものではない。EU加盟諸国は通貨だけではなく、市場統合、社会的な結束、共通通商政策など様々な分野での統合を進めている。</p> <p>本講義では、前期講義に引き続き、主に70年代以降の欧州共同体の発展に焦点をあてながら、欧州統合の展開を学ぶ。</p>					
授業計画		後期			
		第1回 欧州統合とは何か(再論)			
		第2回 欧州域内市場統合(1)			
		第3回 欧州域内市場統合(2)			
		第4回 欧州通貨統合の展開(1)			
		第5回 欧州通貨統合の展開(2)			
		第6回 欧州通貨統合の展開(3)			
		第7回 EUの共通政策(1):産業政策			
		第8回 EUの共通政策(2):運輸政策			
		第9回 EUの共通政策(3):雇用政策			
		第10回 EUの共通政策(4):地域政策			
		第11回 EUの共通政策(5):教育政策			
		第12回 EUの共通政策(6):消費者保護政策			
		第13回 EUの地域政策(1):欧州拡大その1			
		第14回 EUの地域政策(2):欧州拡大その2			
		第15回 欧州統合の展望			
テキスト	田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』、有斐閣、2001年。				
参考文献					
視聴覚機器の利用	利用予定	単位認定の方法	授業+試験+出席から総合的に評価する		
学生へのメッセージ		内容的に関連する科目	国際経済論Ⅰ・Ⅱ 外国経済論Ⅱ		

科目名	生産管理Ⅱ(選択)	専門科目		開講期間	後期
		コース	B	単位数	2
		開講年次	3		
ふりがな 氏名	あべ ときお 阿部 時男	テーマ	現代の生産管理、科学的管理技法、ジャスト・イン・タイム		
授業概要 <p>生産管理を広義に定義するならば、“財貨の生産に関与する諸種の生産力の総合的調整によって企業全体としての生産力を最高度に発揮せしめる”(生産管理便覧、丸善)である。すなわち、物的ならびに人的生産力を合理的に組み合わせることによって経営目的達成のために諸活動を組織的・科学的に機能させ、高い生産能率をあげることである。そのためには、まず、設備・工具・動力の機械化そして管理面の情報化と人間工学的な合理化を図り、また、一方で労働力の能率的利用のための技能の養成と能力の開発を促進することである。</p> <p>現代の生産管理は、もの作りを側面から支援する役割から部材の調達から、生産、そして、流通にいたる一連の流れの中で機能することが求められている。すなわち、生産の管理から広く製造企業の管理の観点に生産を見つめて行かなければならない。その意味で、インダストリアル・エンジニアの知識が不可欠である。本講義では生産管理をI E(インダストリアル・エンジニア)の観点に重点を置き学習する。そこで取り扱う内容は出来るだけ現代の製造企業の管理に欠かすことの出来ない実践的知識についてビデオ教材を用いて出来るだけやさしく解説する。</p>					
授業計画		後 期			
		第1回 在庫管理の基礎と在庫モデル1			
		第2回 在庫管理の基礎と在庫モデル2			
		第3回 トヨタ式在庫管理1			
		第4回 トヨタ式在庫管理2			
		第5回 かんばんと目で見える管理1			
		第6回 かんばんと目で見える管理2			
		第7回 MRP			
		第8回 品質保証と自動化1			
		第9回 品質保証と自動化2			
		第10回 段取り替えと保全・安全1			
		第11回 段取り替えと保全・安全2			
		第12回 フレキシブル総合生産システム1			
		第13回 フレキシブル総合生産システム2			
		第14回 生産改革と評価1			
		第15回 生産改革と評価2			
テキスト	桑田秀夫著『生産管理概論』日刊工業新聞社				
参考文献	『I E入門シリーズ1-11巻』日刊工業新聞社、『生産管理の基礎テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター				
視聴覚機器の利用	ビデオ教材活用	単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題、各25%、出席率60%以下は認定対象外		
学生へのメッセージ	「生産管理Ⅰ」を受講していること、ビデオ教材の利用、工場見学の奨め	内容的に関連する科目	生産管理Ⅰ、経営管理、経営学		

科目名	経営情報Ⅱ（選択）	専門科目		開講期間	後期
		コース	B	単位数	2
		開講年次	2		
ふりがな 氏名	あべ ときお 阿部 時 男	テーマ	経営情報システムと販売管理		
授業概要 <p>事務処理の領域にコンピュータを利用することは今日広く行われている。しかし、どのような事務処理であってもコンピュータを利用して行うことができるのではない。ある事務処理がコンピュータを使って行うことができるためには、その事務処理手順が「プログラム可能」でなければならない。</p> <p>では「プログラム可能」にするためにいはいはどうか。その順序は、現状を分析し、その結果から問題点を明確に認識し、改善案を作成し、機械化の概要を作りそれを具体的にコンピュータ処理するためのコード体系、出力・入力帳票の設計そしてプロセス流れ図を作りプログラムを設計図に基づいて作成するのである。</p> <p>本講座は、経営情報Ⅰで学んだ情報システム構築の経験と知識をもとに経営情報論を展開する。今日の経営に欠かすことの出来ない情報システムとそれに関連する基礎知識、最近話題になっているインターネットを活用した新しい経営情報システムについて、販売業務を題材にして解り易く進めてゆく。また、先進的な実例をビデオ教材を用いて紹介する。</p> <p>コンピュータに関する知識が常識となりつつある現代社会において本講座は諸君の血となり肉となるものと確信している。</p>					
授業計画		後 期			
		第1回 販売の緒活動			
		第2回 販売の緒活動（SFA）			
		第3回 販売の緒活動（コールセンター）			
		第4回 販売の緒活動（イントラネット）			
		第5回 販売の緒活動（データベースマーケティング）			
		第6回 販売の緒活動（SCM）			
		第7回 販売活動と情報システム			
		第8回 販売活動の形態			
		第9回 販売活動のIT化			
		第10回 販売活動のIT化			
		第11回 流通業、サービス業のIT化			
		第12回 製造業のIT化			
		第13回 流流システム（受発注システム）			
		第14回 物流システム（在庫管理システム）			
		第15回 情報システムの設計と開発			
テキスト	『販売情報システム』石渡徳彌 日科技連				
参考文献	『情報システムの分析・設計』国友義久 日科技連				
視聴覚機器の 利用	ビデオ教材の活用	単位認定 の方法	出席、中間・期末試験、宿題 各25%		
学生への メッセージ		内容的に 関連する科目	経営情報Ⅰを受講すること。		

科目名	情報科学 I (選択)	専門科目	専門基礎	開講期間	後期
		開講年次	1	単位数	2
ふりがな 氏名	あへときお 阿部時男	テーマ	コンピュータ、情報、二進法、アルゴリズム、人工知能		
授業概要 <p>一般に、情報科学の学問としての起源は、シャノン (C. E. Shannon) の論文 "Mathematical Theory of Communication" (1948年) とウィーナー (N. Wiener) の著書 "Cybernetics" (同年) と言われているが、その基盤となる領域は、自然科学系の学問のみならず、社会・人文科学系の学問とも深く関わっている。従って、情報科学は、学際色が強く総合科学と言われるわけである。いろいろな分類方法があると思うが、情報科学の主な研究領域としては、情報の定量的性質を取扱う情報理論、コンピュータを中心としたハードウェアやソフトウェアを取扱う分野、そして、人間の情報処理特性の理論を研究する人工知能、認知科学、知識工学などである。茨城大学松井宗彦先生は次のように定義している。「情報」は生物系、人間社会系、機械系を貫き、それらを一本の糸で結びつける主要な理念として位置づけられている。したがって、生物系、人間社会系、機械系における情報の生成・伝達・改造・蓄積・利用等に関する共通の原理を研鑽しようとするものである。本講では以上の理念にもとづき、社会科学系学生諸君に関連の深い話題を選択しわかりやすく講義を行うものである。</p>					
授業計画					
前 期					
第1回 情報科学の生い立ち					
第2回 情報科学の歴史					
第3回 情報の大きさ					
第4回 二進法					
第5回 命題論理と回路					
第6回 符号					
第7回 ハードウェアの基本構成					
第8回 モデルコンピュータ					
第9回 アルゴリズムとフローチャート (プログラム作成1)					
第10回 アルゴリズムとフローチャート (プログラム作成2)					
第11回 数値計算 (プログラム作成3)					
第12回 人工知能とは					
第13回 知識表現					
第14回 問題解決の基礎					
第15回 言語翻訳					
テキスト	『教養のための情報科学入門』中村義作、清水道夫著 近代科学社				
参考文献	『問題解決の心理学』安西祐一郎著 中公新書				
視聴覚機器の利用		単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題 各25%、出席率60%以下は認定対象外		
学生へのメッセージ	ビデオ教材の利用、上記参考書も購入すること。	内容的に関連する科目	情報科学II、コンピュータ基礎科目		

科目名	産業心理学Ⅱ（選択）	専門科目		開講期間	後期
		コース	C	単位数	2
		開講年次	3		
ふりがな氏名	いほもととしてる 稲本俊輝	テーマ	産業場面における人間行動を考える(2)		

授業概要

産業心理学は、産業・経営活動に関連するあらゆる人間行動を対象として分析、解明し、それを実践的に産業場面にフィードバックすることを目的とした応用心理学の一領域である。

したがって、単なる思惟的な話題にとどまらずに、心理学的知見を現実の経営体の内部活動や外部活動に有効に活用することをめざすものである。

産業心理学Ⅱでは、主に経営体の外部活動における人間行動を取り上げる。

授業計画	後 期
	1. 類型論的リーダーシップ論
	2. 力動論的リーダーシップ論
	3. 特性論的リーダーシップ論
	4. 人事管理
	5. 創造性
	6. 産業精神保健
	7. 人事相談、カウンセリング
	8. 消費者行動
	9. 広告、宣伝
	10. 購買心理
	11. サービスの心理
	12. サービスの留意点
	13. アフターサービスの意義
	14. 市場調査
	15. モチベーション・リサーチ

テキスト	特に指定しない。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
視聴覚機器の利用	随時利用する。	単位認定の方法	試験（またはレポート）の結果を中心とするが、出席状況も参考にする。
学生へのメッセージ	私語を含め、授業中の態度には厳しく対処する。 産業心理学Ⅰは必ず履修すること。	内容的に関連する科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

科目名	社会保険論Ⅱ(選択)	専門科目		開講期間	後期
		コース	C		
		開講年次	2	単位数	2
ふりがな 氏名	ふじもと つよし 剛	テーマ	医療保障を中心として		
授業概要 昨年から健康保険被保険者本人の自己負担額が2割から3割にアップし、高額医療費の保険からバックされる分についても所得に応じて大幅にカットされることとなった。医療保障制度改革は目下進行中であるが、年々増大する医療費を抑制するための抜本的制度改革が叫ばれて久しいものの未だ実現に至っていない。その一方で医療ミスや医療費不正受給などの問題が頻発している状況である。われわれの健康を支えるシステムに何が起きているのか。この科目は高齢化の進展に伴ってますます重要性を増している医療保障制度を取り上げその現状と課題、改革の行方を共に考えようとするものである。関連して我が国の医療に相対的に大きな比重を占めている薬の問題、高齢者介護の社会化をもたらしたとされる介護保険についてもその現状と課題を明らかにし、今後の展望を考えていきたい。					
授業計画		後期			
		第1回 社会保険とは何か(医療保障を中心に)			
		第2回 社会保険の沿革(医療保障を中心に)			
		第3回 社会保険の体系(医療保障を中心に)			
		第4回 公的医療保険①(制度の概要)			
		第5回 公的医療保険②(健康保険1)			
		第6回 公的医療保険③(健康保険2)			
		第7回 公的医療保険④(国民健康保険)			
		第8回 公的医療保険⑤(老人保健)			
		第9回 公的医療保険⑥(薬事1)			
		第10回 公的医療保険⑦(薬事2)			
		第11回 公的医療保険⑧(課題と制度改革)			
		第12回 公的介護保険①(意義と背景)			
		第13回 公的介護保険②(制度の概要)			
		第14号 公的介護保険③(現状と課題)			
		第15回 まとめ			
テキスト	川村匡由『社会保険論第三版』ミネルヴァ書房				
参考文献	『厚生労働白書』各年版				
視聴覚機器の利用	ビデオ教材としてNHKスペシャル、クローズアップ現代などを活用する。	単位認定の方法	(出席率+試験成績)÷2にレポート、ビデオメモ、メッセージカードを加味して総合評価する。		
学生へのメッセージ	テーマについて自ら考える積極的な履修姿勢を期待します。	内容的に関連する科目	社会保険論Ⅱ、社会政策論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉論Ⅰ・Ⅱ		

中一種社会必修・高一種地歴必修・高一種公民必修・高一種商業必修					
科目名	生涯教育論Ⅱ（選択）	教職に関する科目		開講期間	後期
		開講年次	2	単位数	2
ふりがな氏名	にしやま しょう 西 山 亨	テ ー マ	生涯学習の推進と教育経営の再編成		
授業概要 <p>「生涯教育論Ⅱ」では、「生涯教育論Ⅰ」の講義をふまえたうえで、生涯学習の推進にかかせない教育経営のあり方の再編成について、その動向と理念を学習していく。</p> <p>教育経営とは、教育の目的を効果的に達成するために、教育に関する組織・運営の主体と教育活動機能を相対的にとらえ、それらの計画と実施及び改善の全体を総合的に把握していくものである。本授業では、公教育の政策形成の教育経営、その法構造、教育経営における学校の自律性を理論的に究明し、情報化社会や教育環境変化における教育経営の諸問題、あるいは教育課程の開発、生涯学習の推進と教育経営の再編成の諸課題を明らかにしていく。また、現代教育経営における国民参加や教師の経営参加あるいは子どもに対する指導の諸問題を取りあげて、現代教育経営の争点についての分析も行っていく。</p> <p>講義名は「生涯教育論Ⅱ」であるが、教育経営領域の各学問体系、すなわち教育行政学、教育財政学、教育法学、教育制度学、学校経営学、比較国際教育学の全体像を把握したうえで、それを貫く「教育の論理」を一般行政の論理と対比させながら、生涯教育の基盤整備に資する教育経営の推進理念を考察していきたい。</p>					
授業計画		後 期			
		第1回	現代教育経営の構造と理論		
		第2回	公教育の政策形成と公教育経営		
		第3回	教育経営の法構造		
		第4回	移動社会と地域文化の継承		
		第5回	地域社会の再生と生涯学習		
		第6回	情報化・国際化と生涯学習		
		第7回	教育経済発展（教育と社会発展の歴史）		
		第8回	教育と経済発展（近代日本の教育と社会）		
		第9回	教育経済発展（個人的投資としての教育）		
		第10回	教育と経済発展（社会的投資としての教育）		
		第11回	教育と経済発展（教育と「市場」メカニズム）		
		第12回	しごとと教育（学歴と就職、女性と職業）		
		第13回	階層・学歴・職業		
		第14回	生涯学習社会の可能性と課題		
		第15回	教育経営組織再編の課題		
テキスト					
参考文献		下村哲夫著『現代教育の論点』学陽書房 1997年 永岡順編著『現代教育経営学—公教育システム経営の探求』教育開発研究所 1995年 菱村幸彦編著『教育の眼・法律の眼 話題で読む教育法規』教育開発研究所 1993年			
授業の進め方等		授業時間の3分の2は講義形式を中心に行い、その講義に基づいて学習課題を与え、授業時間の3分の1を学習者との対話や学習者同士の討議、及びグループ演習として行う。			
授業に関連するキーワード 学習課題等		現代公教育システムにおける教育課題・社会変動と教育経営の再編成・生涯学習審議会答申の文脈と意義・教育の地方自治と地域教育再生計画・学力問題における「新たな階層化社会」の本質・生涯学習社会への移行と教育構造の再編			
視聴覚機器の利用		単位認定の方法		出席と授業態度を重視する。各回の教場レポートと別途課題を与える2回のレポートの内容を評価して単位を認定する。	
学生へのメッセージ		内容的に関連する科目			
		授業内に与える課題はわかりやすい具体的教育事象を題材とするので、その教育事象が教育経営学的にどのように考察されるか、を常に意識化してください。			

科目名	コミュニケーション論Ⅱ（選択）	専門科目		開講期間	後期
		コース	C		
		開講年次	3	単位数	2
ふりがな 氏名	しょうじ 庄司 信	テーマ	論理的思考の訓練		

授業概要

昨今、小学生から大学生まであらゆるレベルで「学力低下」が問題になっている。大学生に関しては、「分数・少数のできない大学生」などと、まずは理系の学力低下がクローズアップされ、論理的思考力が育たないとか、「技術立国」が危ういなどと騒がれている。私も、自分なりの意見や主張を筋道立ててきちんと表現する能力（専門知識以前の、市民・社会人にとっての基礎的能力）をうまく育てられないことは、日本の教育の最大の欠点の一つだと思っているが、論理的思考力を育てるには数学の証明問題が有効という意見には疑問がある。専ら「演繹」に限定される数学的思考と、自然言語で論理的に考え、表現する能力とはだいぶ違いがあるからだ。したがって自然言語による論理的思考こそ、まずは訓練すべきだと思うが、そのためには話し言葉よりは書き言葉で訓練する方が適していることは論を待たない。つまり書き言葉で論理的思考力を培うことで、口頭でのコミュニケーションにおいても徐々に整然と話せるようになっていくことが期待される。そこで、この講義では野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）によりながら、論理的思考の訓練を行う。

ここ何年間かこの授業をやっている、皆さんの不出来ぶりは予想以上に深刻であるが、何であれ訓練さえすればいくらでも能力は伸びる。ということは、論理的思考力を鍛えようという意欲があるかないかが、実は最大の問題なのかもしれない。授業は、皆さんが前もって解説を読み、自分で練習問題をやってみることを前提に進めるので、それなりに覚悟して選択するように。

授業計画	後 期
	第1回 順接の論理
	第2回 同上
	第3回 逆説の論理
	第4回 同上
	第5回 議論の構造
	第6回 同上
	第7回 論証の構造
	第8回 同上
	第9回 論証の評価
	第10回 同上
	第11回 推測
	第12回 同上
	第13回 価値評価
	第14回 同上
	第15回

テキスト	コピーを配布します。		
参考文献			
視聴覚機器の利用	単位認定の方法	出席と試験の総合評価	
学生へのメッセージ	上記概要の最後参照	内容的に関連する科目	

科目名	経営心理学		科目分類	専門 選択																
(ふりがな)	いとう ごろう		開講年次	2																
氏名	伊藤 護 朗		開講期間	後 期																
			単位数	2																
授業概要 経営心理学は、経営体という組織活動を担っていくものとしての人間の行動や心理を探求するものである。 本講では、職場のモラルやリーダーシップなど、組織運営における「人間関係の真実」を中心に講述する。																				
授業方針と留意点	(1) 「理論」と「実例」を有機的に結合させ、実践に役立つ講義としたい。 (2) 記憶しやすいように板書を多くする。																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>後 期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 ガイダンス：経営心理学の意義 〔キーワード〕 実験心理学／適性研究／作業能率</td> </tr> <tr> <td>第2回 経営心理学の四つの領域 〔キーワード〕 人事心理／作業心理／組織心理／市場心理</td> </tr> <tr> <td>第3回 人間関係管理論（Ⅰ） 〔キーワード〕 人間（じんかん）距離／ジレンマ／緊張解消</td> </tr> <tr> <td>第4回 人間関係管理論（Ⅱ） 〔キーワード〕 青い鳥症候群／燃えつき症候群／シンデレラ・コンプレックス</td> </tr> <tr> <td>第5回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅰ） 〔キーワード〕 言行一致／誠実／意識改革</td> </tr> <tr> <td>第6回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅱ） 〔キーワード〕 過分報酬／類似性の要因／慰労</td> </tr> <tr> <td>第7回 職場におけるリーダーシップ 〔キーワード〕 職場組織／管理職／一般職</td> </tr> <tr> <td>第8回 人心掌握のベース作り 〔キーワード〕 一括報酬／分割報酬／公平分配</td> </tr> <tr> <td>第9回 リーダーシップの科学 〔キーワード〕 PM理論／P機能／M機能</td> </tr> <tr> <td>第10回 組織集団の状況とリーダーシップ 〔キーワード〕 集団の性質／自律と意欲／リーダーの特性</td> </tr> <tr> <td>第11回 動機づけ理論（欲求の喚起） 〔キーワード〕 生理的欲求／安全性の欲求／社会的欲求</td> </tr> <tr> <td>第12回 リーダーになるための条件 〔キーワード〕 先見性／幸運／外向型（性格）</td> </tr> <tr> <td>第13回 説得力の高揚（Ⅰ）－ハロー（後光）効果 〔キーワード〕 肩書／学歴／交友関係</td> </tr> <tr> <td>第14回 説得力の高揚（Ⅱ）－説得者の魅力効用 〔キーワード〕 人脈／振る舞い／理念と方針</td> </tr> <tr> <td>第15回 試験 〔キーワード〕</td> </tr> </tbody> </table>				後 期	第1回 ガイダンス：経営心理学の意義 〔キーワード〕 実験心理学／適性研究／作業能率	第2回 経営心理学の四つの領域 〔キーワード〕 人事心理／作業心理／組織心理／市場心理	第3回 人間関係管理論（Ⅰ） 〔キーワード〕 人間（じんかん）距離／ジレンマ／緊張解消	第4回 人間関係管理論（Ⅱ） 〔キーワード〕 青い鳥症候群／燃えつき症候群／シンデレラ・コンプレックス	第5回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅰ） 〔キーワード〕 言行一致／誠実／意識改革	第6回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅱ） 〔キーワード〕 過分報酬／類似性の要因／慰労	第7回 職場におけるリーダーシップ 〔キーワード〕 職場組織／管理職／一般職	第8回 人心掌握のベース作り 〔キーワード〕 一括報酬／分割報酬／公平分配	第9回 リーダーシップの科学 〔キーワード〕 PM理論／P機能／M機能	第10回 組織集団の状況とリーダーシップ 〔キーワード〕 集団の性質／自律と意欲／リーダーの特性	第11回 動機づけ理論（欲求の喚起） 〔キーワード〕 生理的欲求／安全性の欲求／社会的欲求	第12回 リーダーになるための条件 〔キーワード〕 先見性／幸運／外向型（性格）	第13回 説得力の高揚（Ⅰ）－ハロー（後光）効果 〔キーワード〕 肩書／学歴／交友関係	第14回 説得力の高揚（Ⅱ）－説得者の魅力効用 〔キーワード〕 人脈／振る舞い／理念と方針	第15回 試験 〔キーワード〕
後 期																				
第1回 ガイダンス：経営心理学の意義 〔キーワード〕 実験心理学／適性研究／作業能率																				
第2回 経営心理学の四つの領域 〔キーワード〕 人事心理／作業心理／組織心理／市場心理																				
第3回 人間関係管理論（Ⅰ） 〔キーワード〕 人間（じんかん）距離／ジレンマ／緊張解消																				
第4回 人間関係管理論（Ⅱ） 〔キーワード〕 青い鳥症候群／燃えつき症候群／シンデレラ・コンプレックス																				
第5回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅰ） 〔キーワード〕 言行一致／誠実／意識改革																				
第6回 信頼関係（思いやりで部下を動かす）（Ⅱ） 〔キーワード〕 過分報酬／類似性の要因／慰労																				
第7回 職場におけるリーダーシップ 〔キーワード〕 職場組織／管理職／一般職																				
第8回 人心掌握のベース作り 〔キーワード〕 一括報酬／分割報酬／公平分配																				
第9回 リーダーシップの科学 〔キーワード〕 PM理論／P機能／M機能																				
第10回 組織集団の状況とリーダーシップ 〔キーワード〕 集団の性質／自律と意欲／リーダーの特性																				
第11回 動機づけ理論（欲求の喚起） 〔キーワード〕 生理的欲求／安全性の欲求／社会的欲求																				
第12回 リーダーになるための条件 〔キーワード〕 先見性／幸運／外向型（性格）																				
第13回 説得力の高揚（Ⅰ）－ハロー（後光）効果 〔キーワード〕 肩書／学歴／交友関係																				
第14回 説得力の高揚（Ⅱ）－説得者の魅力効用 〔キーワード〕 人脈／振る舞い／理念と方針																				
第15回 試験 〔キーワード〕																				
テキスト	開講時に指示する。																			
参考文献	松浦健児・岡村一成編 『経営組織心理学』（朝倉書店）																			
評価方法	出席状況と試験の成績																			